

2007.07.17：防災・危機対策調査特別委員会

「緊急物資の備蓄と調達について」

池田友信委員

私は今回の特別委員会は、議会として当局が岩崎副市長、防災危機担当副市長が設置して対応するという姿勢でもありますし、議会側としてもいつ起こるか、いつ発生してもおかしくないと言われる、宮城県沖地震に対する市民の不安を解消すべく、議会として取り組む大事な特別委員会の掘り下げが必要というふうに思っております。その中で過去の特別委員会とその中での緊急性のものとか、欠如しているものも含めて皆さんで御論議をしていただいてテーマとして、やっていかなければならないと思っているんですが。

一つは特別委員会の名称にもありますように、災害と危機管理の対策と二つあるわけですね。災害関係はいろいろな意味で歴代の中でやっておりますが、非常に危機管理の問題がこれでいいのかなという私は一抹の不安があります。まあいろんなテロ行為とかも含めてこれに対する対応を含め、どんなものかなというのが一つあるということが委員長としても御意見をいただければなと思えます。

それからもう一つ、過去の特別委員会あるいは議会の他都市の視察の中で感じておったんですけれども、神戸なんかのときには議会の対応が非常にまちまちだったんですね。したがって市民から見ると議会としてのあり方、議員としてのあり方、災害発災時の中での議会としてどうあるべきなのか、こういうことを整理しておかないと、私は受ける市民、見る市民、さまざまですけれども神戸の状況からすると、現地に入って議会として決めなくてはならない大事な議会機能というものに対して、なかなか集まって決められない部分、あるいはそういうことの高等判断が難しいというふうな状況もあったように聞いています。

したがって我々そういう状況がある中で、今現在、起きた場合に我々議員がどういう対応をとるのかと。現地に入って現地のための対策を一生懸命やるのが市民のためにいいというふうになるかもわかりませんし、議会側から当局側含めて、市民の代表の議決でもっていろんな方法を決めていかなきゃない。そのときに半分しか来ないという状況がどんなものなのかということをお我々が整理しておいて市民に発信しておかないと、何で議員はいないんだというふうな形の受けとめをされる、反発をされるという部分があると思うんですね。

ですから、せっかくある特別委員会の中で、やはりその辺を整理して、先ほど委員長の方から話があったように市民への発信をするということの中の一つに、災害が起きた場合に議員としては、こういう機能でこういう役割がありますということをお整理して発信しておかないと対応するときの状況でどんなもの

かなと。

今現在、整理されているかという点、そこは非常に整理されていないような感じがするので、その辺を御論議いただいてある意味では発信しておかないといけないなというふうに私は感じておりますので、その辺についてはサブテーマでもいいですから、議会の対応について。その辺、議会側の規則上からいくところだということなんでしょうけれども、実態を把握して、ここで論議することも大事なことです。全然実態を見ずして尊重視すべきなのか、あるいは実態を把握してこちらに集まるべきなのか、集まる状況についてはどういうタイミングが必要なのか。その辺の議会側としての整理の仕方を、災害発災時の中での議会体制のあり方ということについて、これは特別委員会だけで方向を決めるわけではないですから、ここで論議をして議会としての方向性を大きな議員全体、議会全体のことでしょうけれども。どんなことをすることについて、どういうふうに委員長としてお考えなのか。あと皆さんの御意見も聞いて、この特別委員会の中でも論議すべきことは論議した方がいいんじゃないかと。委員長、二つね。

委員長

池田委員から貴重なお話をいただきましたが、実はそのことも念頭に置いて委員長、副委員長の打ち合わせなどもしております。極めて貴重な意見であり我々も同感です。そして後ほど日程の御相談もいたしますが、この特別委員会の年間において前半、後半みたいに考えておまして、前半が公的な行政としての、あるいは市民としてのあり方を調査研究するとともに、後半は、いま池田委員がおっしゃったようなことを踏まえた市民への発信ということに大きく比重を置いた調査をしたいというふうに考えておりましたので、お話しは同感です。ぜひ運営に当たりますとも我々もそんなふうに運びたいと思いますので、御了解いただければと思います。

池田友信委員

できれば、第1回目の形ですから、ぜひこれから中身を濃く論議する意味においても、当局側のこれからの災害対策、防災対策、危機対策についてどんな姿勢でいくのかですね、我々の方でテーマを絞った時点で、できれば次回くらいに岩崎副市長の防災危機管理の担当をお招きいただいて、そしてそういった姿勢なり所信なりをお聞きしながらこれから論議を深めていくということも必要じゃないかなというふうに私は思いますけれども。皆さんの御意見も聞いてください。

